

千葉県動物公園湿原ゾーン・森林ゾーン整備基本計画策定等業務委託
基本計画書

概要版

令和6年3月



株式会社翔設計

目次

I. 施設規模及び仕様の検討・設定

1. 基本事項の整理

- 1-1. 計画策定にあたっての基本的な考え方 p. 5
- 1-2. 森林ゾーン・湿原ゾーン再整備の考え方 p. 6
- 1-3. 各ゾーンの整備方針 p. 8

II. 動線及び空間デザインの検討・設定

- 1. 動線計画 p. 15
- 2. 空間デザイン p. 21

III. イメージ図

- 1. イメージ図 p. 51

I . 施設規模及び仕様の検討・設定

I. 施設規模及び仕様の検討・設定

1. 基本事項の整理

1-1. 計画策定にあたっての基本的な考え方

生息環境の再現を意識した自然修景で、見ごたえのある風景をつくる。「動物の姿・形」を見せるのではなく「動物の生活」を魅せ、動物たちがいきいきと生活する展示空間を創出する。また、動物福祉基準への対応や希少種の保全事業についても精力的に取り組む。

基本的な考え方

湿原ゾーン・森林ゾーン整備基本計画策定にあたっては、園全体の施策展開を示した「1. 基本方針」を踏まえ、「2. 湿原ゾーン・森林ゾーンの改修について」に基づき検討を行う。

1. 基本方針

平成26年3月に策定した「千葉市動物公園リスタート構想（以下、「リスタート構想」という）」の実現を図るため、ソフト・ハード両面において時代に即した再生施策展開を図る。特に以下のテーマに一層の注力を図り、推進することを基本方針とする。

- (1) 対象顧客層の拡大
従前の幼児やこども、ファミリー層に加え、より幅の広い世代を対象化し、各世代が楽しみながら学び、交流できる生涯学習の場の構築を目指す。
- (2) 顧客体験と発信情報の質的量的強化
野生動物の体の仕組みや生体の魅力、命の尊厳や大切さに加え、以下のテーマに関しても情報と体験の創出と発信に注力していく。
ア 生物多様性や自然との共生
イ 動物に関係する文化・芸術・科学
ウ 命を取り巻く課題、SDGsに代表される現代人が対峙すべき地球規模の課題
- (3) 公園機能の充実
“憩いと癒し、楽しみながら学ぶ場”としての環境整備
- (4) 新たに取り組むテーマ（リスタート構想策定後に取り組む必要が生じたテーマ）
ア 動物福祉基準への対応
全世界的スタンダードの評価プログラムとなる動物福祉基準に適応した飼育オペレーションと展示施設の設置を行う。
イ 自国希少種の保全事業
外国産種だけでなく、わが国の希少種の保全に取り組むことで、気づきと学びの領域を拡大する。
(種の保存法に位置付けられた「認定希少種保全動植物園」としての認定を目指す)

1-2. 森林ゾーン・湿原ゾーン再整備の考え方

平成26年に施行された「千葉市動物公園リスタート構想」において記載・計画された内容に対し、動物等を取り巻く「入手性」「展示実現性」「維持・運営面」等の面から検証を行い、時点修正を行った。

【検証の観点】

展示手法の実現性と展示の魅力度（費用対効果）、ゾーンテーマとの整合性、動物福祉基準への対応

コレクションプランの検討

下記視点について検討し、選考した。

- ・「千葉市動物公園リスタート構想」で設定されたゾーンテーマの具現化
- ・日本動物園水族館協会コレクションプランの位置づけ
- ・保持するコストによる持続的維持管理が可能
- ・将来的な入手性

展示計画の修正点

①森林ゾーン

●見直す計画

・オランウータンの飼育（現在非展示）
特に大型類人猿は動物福祉への対応から、ハード・ソフト面に多くの資源が必要となることから、群れ飼育が前提となるゴリラの飼育と合わせると大きな負担となる。

・サル比較舎（現在7種を展示）
動物福祉を充足させる施設づくりを必要とするが、多くの敷地区画並びに建築構造物を必要とし、他動物のスペースがとれない。



●新たな取組、強化する取組

・ゴリラの繁殖に適う環境整備
国内ゴリラ6園・20頭まで減少している。
園内飼育頭数の1/4は本市所有であるが、これまで繁殖実績が無い。種の保全を推進させるため、本来の群れで生活できる環境を提供する。
(ゴリラは千葉市動物公園のロゴマークに採用されているシンボル種となっている。)

・動物の福祉に配慮した飼育・展示空間の創出
生息環境の再現を意識した自然修景で、見応えある風景をつくる。各飼育・展示施設は、動物福祉を考慮し、各動物種の生理、生態に配慮したものとする。
動物福祉に関連する業務が多くを占め、それらに対処するため、飼育数の絞り込みを行う。

■展示動物

繁殖注力種	ゴリラ、マレーバク、フクロテナガザル
展示テーマを演出するための種	森林性サル、ビントロング、アカカワイノシシ、ホンドザル、キジ類、日本産動物

②湿原ゾーン

●見直す計画

・ウォークスルー型フライングケージ
近年、鳥インフルエンザ発生頻度が高まっており、観覧制限期間が長期化するリスクがある。

・ビーバーのダムづくり
・ビーバーによる「ダムづくり」は恒常的再現並びに、施設の構築、維持には困難である。

・ペンギン・アシカの飼育
・水量の低下等、ランニングコスト面からの考慮
・動物の生息環境展示が必要であるが、これらの種は「湿原ゾーン」生息環境と一致しない。



●新たな取組、強化する取組

・カピバラが家族で悠々と泳ぐ広い池を取り囲むくつろぎの空間
風貌や行動から人気種であり、見る人に対する癒し効果が大きい。
国内では温泉につかる姿が有名だが、家族で大きな池に列をなして泳ぐ姿など、本来の生態を観察できる生息環境を再現する。

・ハシビロコウの繁殖に重点を置き、湿原をイメージさせる環境の提供
国内初となる繁殖を目指し、野生に近い環境を整備する。併せて飛翔する姿や営巣活動など本来の行動を発現させる。

■展示動物種

繁殖注力種	ハシビロコウ、カピバラ
展示テーマを演出するための種	カワウソ、ビーバー、スナドリネコ、ショウジョウトキ、ガンカモ類、フクロウ

1-3. 各ゾーンの整備方針

全体及び各ゾーンの計画における整備方針については、以下の通りである。

○全 体

共通テーマ：『動物の行動を最大限に引出す』

コンセプト：『行動の裏にある意味を伝える』

目指す展示：・動物福祉向上を図る為に動物の持つ本来の行動を引出すことで、動物も来園者にも精神的に充実した空間を提供する。
・本来の行動を引出すことで動物に対する好奇心を高める。
・その動物が暮らす環境への理解を深める。

効 果 ：動物福祉や自然のつながり、保全への関心に派生していく

①森林ゾーン

【アフリカの森】

繁殖注力種：ゴリラ

- 主 題：ゴリラの繁殖を成功させるための飼育環境を整備する。
- 取 組：家族での生活を可能とする空間並びに構造の構築
樹上生活を再現できる環境の再現(自然木を利用した三次元構造)
- 具体表現：ゴリラが暮らすアフリカの森林をイメージさせる修景の再現
エンリッチメント取組など動物福祉の充足

アフリカの森に生息するゴリラを中心に、同じ生息域近辺にいるアカカワイノシシ、ブラッザグエノン、ホロホロチョウを展示する。また、アフリカ地域でも独自の進化を遂げたマダガスカル島に生息するクロシロエリマキツネザル等を展示する。

【アジアの森】

【アジアの森林】

繁殖注力種①：テナガザル

- 主 題：樹上生活者であるテナガザルの行動を魅力的に見せる
- 取 組：より自然な環境で迫力あるブラキエーションと音声コミュニケーションの発現
- 具体表現：従来の人工的な雲梯から擬木等を使用した自然修景に変更

繁殖注力種②：マレーバク

- 主 題：林床生活者であるマレーバクの行動を魅力的に見せる
- 取 組：・繁殖行動に繋がる環境の提供
・野生下と同様の活動量の再現
- 具体表現：・アジアの熱帯林をイメージさせた展示で、テナガザルとの通景展示
・水中での行動も可能な水辺の設置

【千葉の森林】

展示テーマを演出するための種：ホンドザル

- 主 題：千葉県天然記念物の存在と動物園のサル山の歴史を伝える
- 取 組：・動物福祉の観点から動物の心理的ストレスの要因となる従来の見下げ展示を見上げ展示へ変更し、新たな観覧視点を提供
・群れによる本来の社会行動ができる環境の提供
- 具体表現：国内初のサル山展示が参考にした高宕山を再度再現する

アジアの森に生息する上記動物を中心に、同じ生息域近辺のビントロング、キジ類、アカアシドゥクラングールを展示する。千葉の森林では県内で絶滅したムササビ、外来種で生息域を拡大しているキョン等を展示し、他園にない独自性を追求する。

■他候補種一覧表【アフリカの森】

	動物種名	想定頭数	理由	代替種案
●	ゴリラ	8頭	園内の飼育園館、頭数が減少しており、ゴリラの繁殖、保全活動を推進させる必要がある。園のトレードマークであり、シンボリック存在となっている。入手性、相対的費用を考慮し、初期案のアランウータンを見合わせ、ゴリラに注力する。	—
●	ブラッザグエノン	4頭	ゴリラと同じ生息地である既存種。 特徴的な美しい毛並みを持ち、半樹上性で、樹上と地上での行動を見ることができ る。	アビシニアコロブス
●	アカカワイノシシ	8頭	ゴリラと同じ生息域を持ち、エリア内で多様な種を魅せる観点からゴリラの樹上性と対になる地上性動物を配置する。世界で最も美しいイノシシと言われ、既存種では見られない生態を展示することができる。	—
●	エリマキツネザル	4頭	アフリカに近隣するマダガスカルに生息する種で、特徴的な鳴声が来園者を惹きつけ、ゾーンへの集客効果を高める。	ワオキツネザル
●	ホロホロチョウ	5羽	アフリカに生息する鳥類のため。	アフリカの鳥類
▲	ワオキツネザル	6頭	想定飼育スペースが1種しか確保できないため、上記のサルを優先する。	
▲	アビシニアコロブス	6頭	当園での飼育経歴、行動特性からブラッザグエノンの代替種とした。	
×	マンドリル	8頭	本来の群れを維持するスペースを確保できないため。	

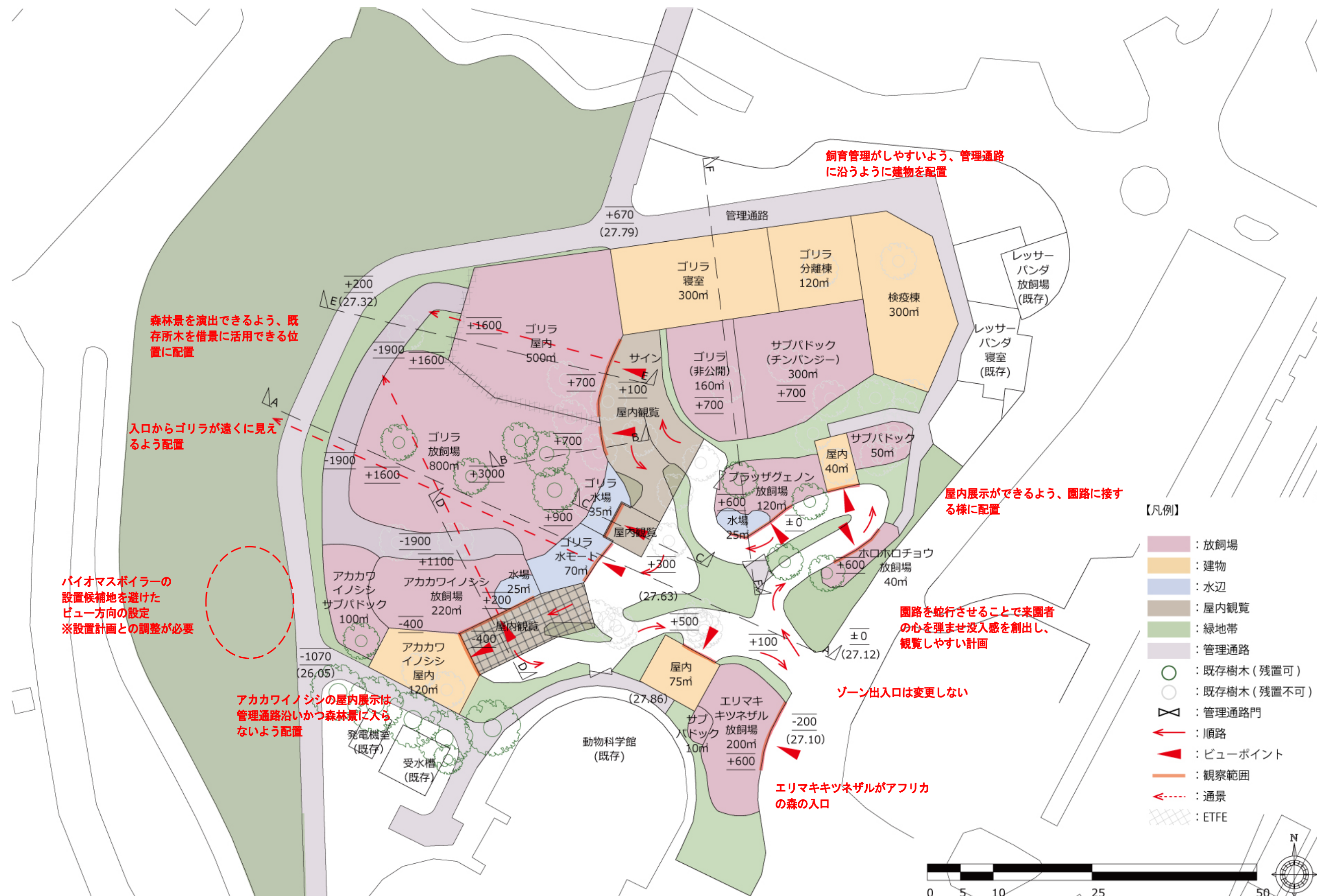
※●：採用種、▲：代替種、×：断念種

■他候補種一覧表【アジアの森】

	動物種名	想定頭数	理由	代替種案
●	フクロテナガザル	3頭	本種ならではの形態や動きにより、来園者を惹きつける魅力がある。動物の福祉と保全の推進により環境改善が求められる。	—
●	マレーバク	3頭	種の保全に必要な環境を提供することで繁殖活動の活発化を図る。既存飼育エリアでは生息地が異なるため、森林ゾーンに移動をする。	—
●	コサンケイ	3羽	日本動物園水族館協会（JAZA）が掲げるコレクションプランで最上ランクの保全種に指定されている唯一のキジ類のため。	ハイイロコクジャク、
●	ビントロング	3頭	アジアに生息する動物の中で霊長類以外の樹上性動物として展示し、霊長類とは異なる樹上での動きを見ることができる。	レッサーパンダ
●	アカアシドゥクラングール	6頭	世界で最も美しいサルと言われ、コサンケイと同じ生息域であり、新規動物としてホンドザルとは異なる行動を観覧できる。	フランソワルトン
●	キジ類	3羽	ゾーン内に樹上性哺乳類が多く、地上性の鳥類を望むため。	キジ類
●	ホンドザル	10頭前後	県内高宕山のサル生息地が天然記念物であることを伝えることができ、同時に動物園のサル山の歴史を継承する。	—
●	ムササビ	3頭	県内において絶滅した種であり、千葉県の歴史に関する普及啓発効果が高いため。	ニホンリス
●	キョン	2頭	千葉県で問題となっている特定外来生物であり、外来種問題に関する普及啓発を行うため。	ハクビシン
▲	ハクビシン		想定飼育スペースが1種しか確保できないため。	
▲	アライグマ			
▲	ハイイロコクジャク			
▲	コジュケイ			
▲	ヒオドシジュケイ			
▲	カンムリシャコ			
▲	ミゾゴイ			
▲	フランソワルトン	6頭		
▲	ニホンリス	20頭		
×	日本産カメ類			
×	カヤネズミ		ゾーンでは屋外展示を優先するため、個体が小さく展示効果が薄いため。	
×	マレーハコガメ			
×	トウキョウサンショウウオ			
×	イノシシ	8頭	群れで維持するスペースが確保できないため。	
×	シカ	10頭		

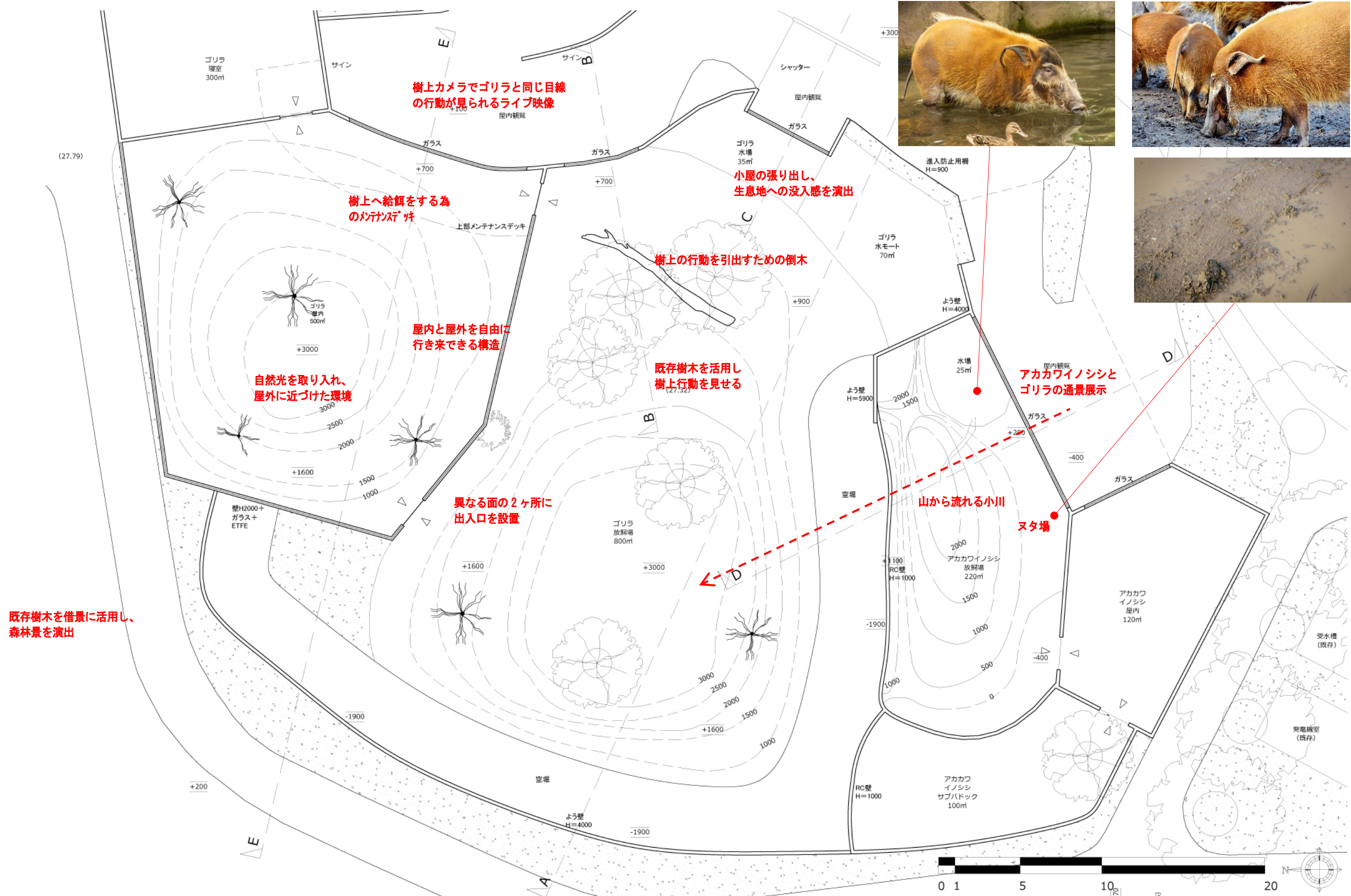
※●：採用種、▲：代替種、×：断念種

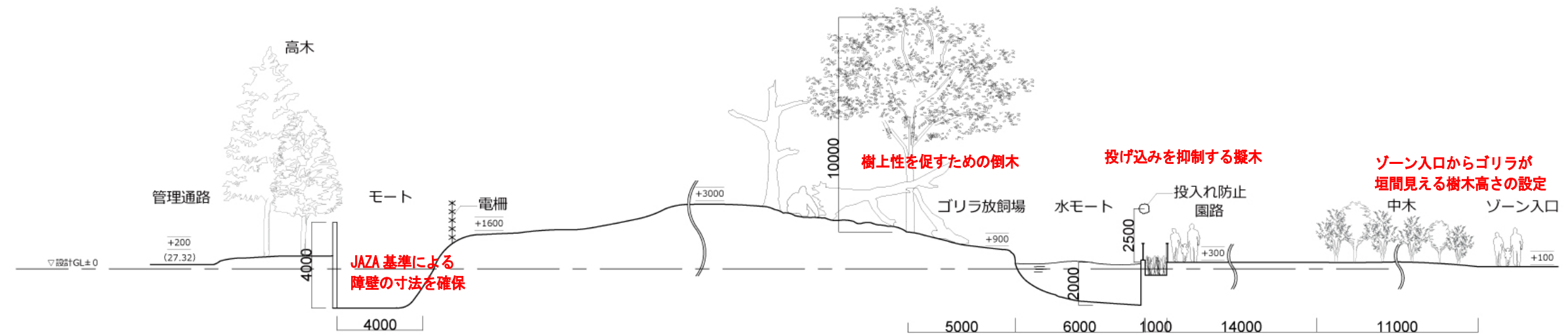
Ⅱ．動線及び空間デザインの検討・設定



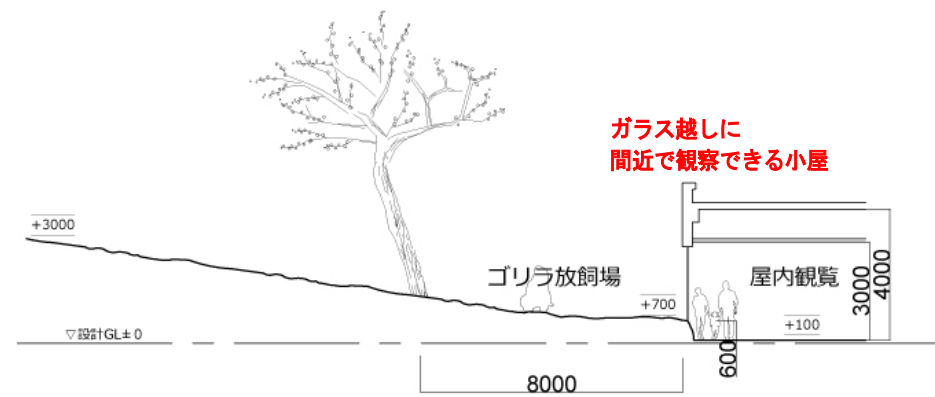
2. 空間デザイン

①森林ゾーンA【アフリカの森】 ゴリラ・アカカワイノシシ

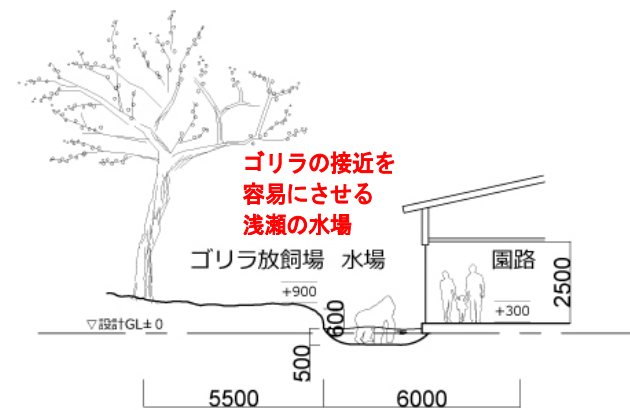




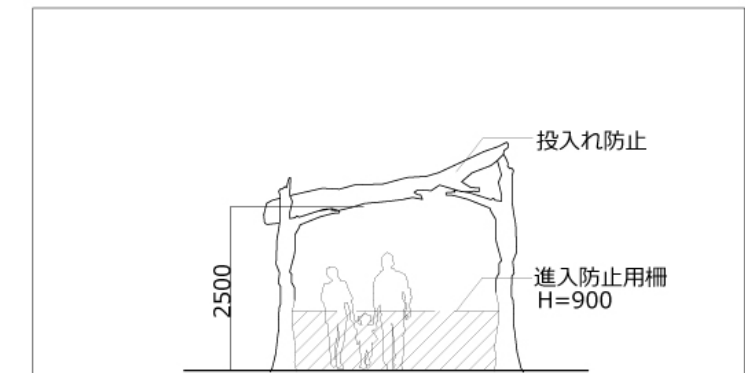
A-A断面図



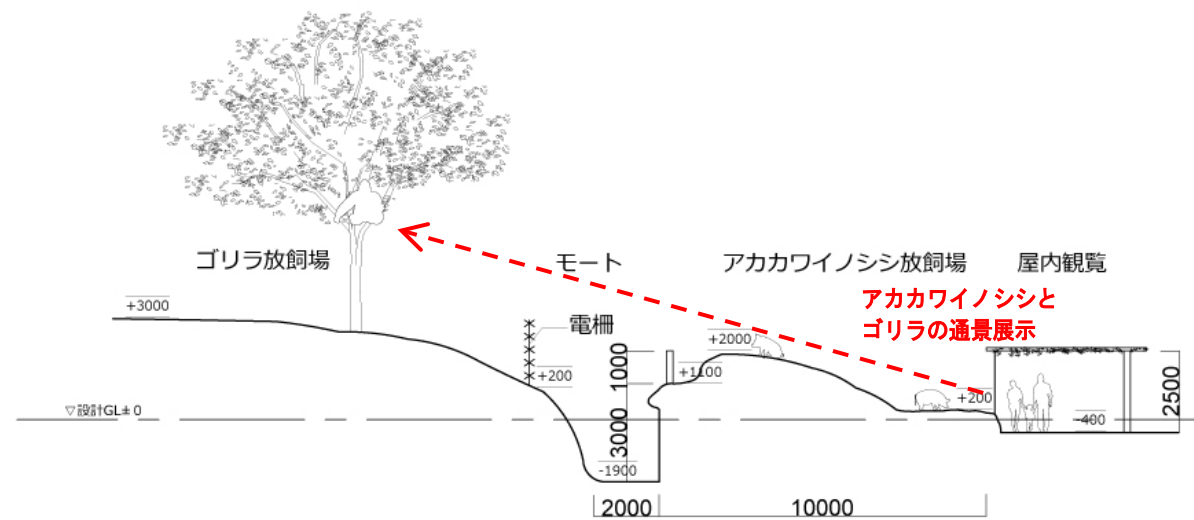
B-B断面図



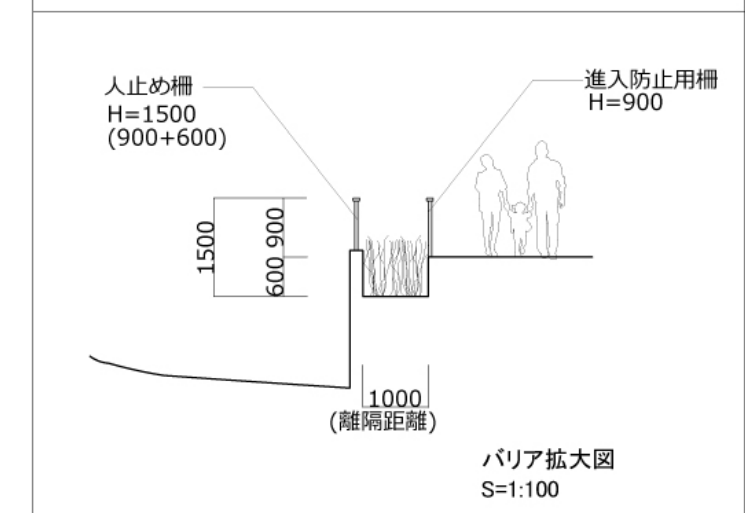
C-C断面図



投げ入れ防止拡大図
S=1:100



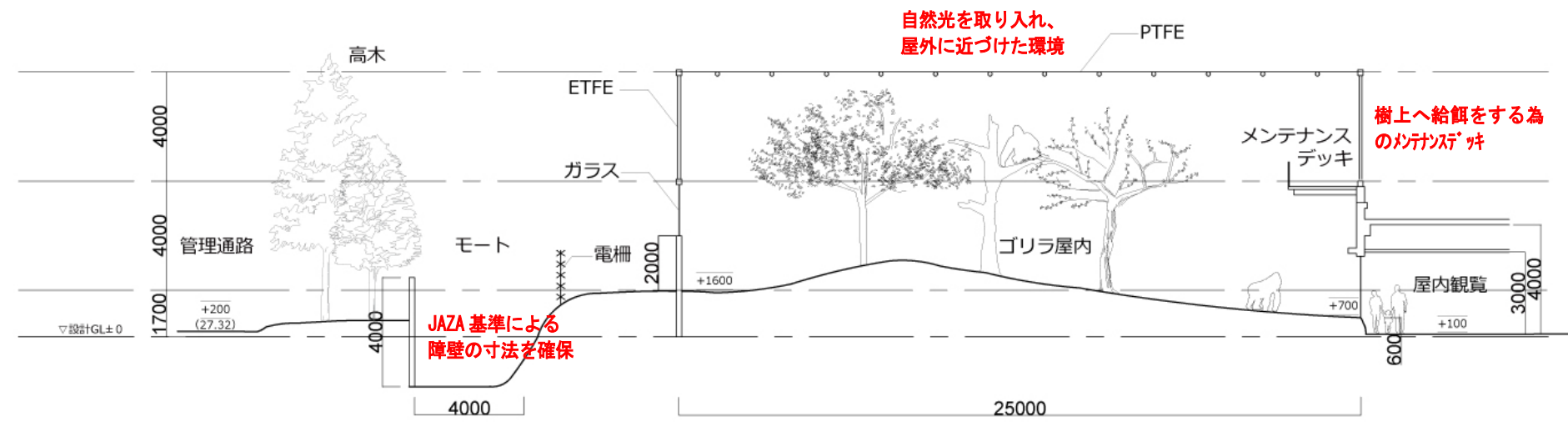
D-D断面図



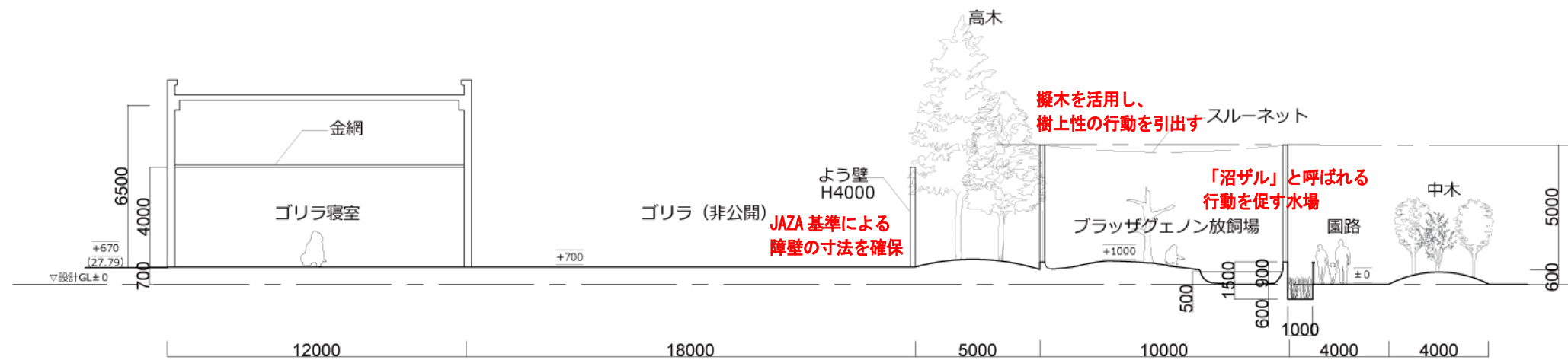
バリア拡大図
S=1:100

—— : 計画レベルを示す
() : 既存レベルを示す
設計GL = (27.12) = ±0 とする





E-E断面図



F-F断面図

—— : 計画レベルを示す
 () : 既存レベルを示す
 設計GL = (27.12) = ±0 とする



Ⅲ. イメージ図

Ⅲ. イメージ図

①森林ゾーンA【アフリカの森】 ゴリラ屋外展示のメインビュー



①森林ゾーンA【アフリカの森】 アカカワイノシシとゴリラの通景展示

